

科目名	デザイン実習 1A						年度	2024	
英語科目名	Design Practice 1A						学期	後期	
学科・学年	デザイン科 インテリアデザイン専攻 1年次	必/選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	角田光代		教員の実務経歴	有	実務経歴の職種	インテリアデザイナー			
【科目の目的】 設計・模型制作を通して空間デザインの技術を身につけることを目的とします。 ・与えられたボリュームの中でコンセプトが表現された空間をつくる ・はじめから1つに絞らず、よりよいスペースを生み出す ・いろいろな素材や道具に触れ、自身の表現のために使う素材を試す									
【科目の概要】 はじめて自分自身が設計・デザインした空間をつくる。まずよいデザインを調査することから始め、自身のデザインに落とし込み、発想力を磨けるようなワークフローを進める。課題制作を通して表現技法を学び、空間デザインのための各種図面を描く上で必要な動線計画、内装計画などを順序立てて進めていきます。課題「〇〇のある戸建て住宅」では、ロケーション、ターゲット、コンセプトの思考とともに、空間の中で何が出来る、何かある、と際立させる提案を求めます。									
【到達目標】 A テーマ設定しコンセプトを立てられる。 B 他者にイメージがしやすい図面の作図ができる。 C インテリアエレメント、マテリアルの選定ができる。 D スケッチ、パース、模型等の制作ができ、他者に意図を伝えられる表現方法の幅を広げる。 E プレゼンテーションボードを作成し、伝わるプレゼンができる									
【授業の注意点】 授業に出席するだけでなく、制作にあたっては各自で事前準備と事後のフォローを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受ける事ができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力				
到達目標 A	課題条件を理解して、テーマ設定ができコンセプト立案ができている		課題条件を理解して、テーマ設定が概ねできており、コンセプト立案ができている		課題条件を理解しておらず、テーマ設定やコンセプト立案ができていない				
到達目標 B	イメージしやすい図面の作図ができている		イメージしやすい図面の作図が概ねできている		イメージしやすい図面の作図ができない				
到達目標 C	インテリアエレメント、マテリアルの知識・調査力、共に極めて高い		インテリアエレメント、マテリアルの知識・調査力がある		インテリアエレメント、マテリアルの知識・調査力がない				
到達目標 D	スケッチ、パース、模型などの表現技法に長けている。		スケッチ、パース、模型などの表現技法が概ねできる		スケッチ、パース、模型などの表現技法ができていない				
到達目標 E	聞き手を意識をした、明確なプレゼンができている		自身の考えをプレゼンできる		自身の考えをプレゼンできていない				
【教科書】 やさしく学ぶインテリア製図									
【参考資料】 オリジナル資料									
【成績の評価方法・評価基準】 思考力20% 表現力20% 制作物（提出成果物）40% プレゼンテーション力 20% 授業への意欲 の他、成果物、プレゼンテーションまでに至る経過を評価します。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		デザイン実習 1A			年度	2024
英語表記		Design Practice 1A			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	デザインに触れる	住宅のデザインを知る、好きな住宅のデザインを見つける	調査	デザインを調査することから始める。		
				好きな住まいを調査できる。		
2	空間を考える	テーマに沿ってスペースを考える	テーマ設定	テーマ設定しコンセプトを立てられる。		
			アイデア出し	特徴のあるスペースを考えられる。		
3	ゾーニングする	動線を考え、何ができるか特徴を出す	空間構成	空間構成に必要な動線を考えられる		
				特徴のあるスペースを考えられる。		
4	表現技法平面	ゾーニングを基に図面化する	作図	平面プランを図面化する		
5	表現技法平面	ゾーニングを基に図面化する	作図	平面プランを図面化する		
6	表現技法平面	ゾーニングを基に図面化する	作図	展開・断面図を描く		
7	表現技法平面	パース作成 着色	パース作成	見せ場となるスペースをパースに描き起こす		
			着色	素材感を意識した着色をする		
8	表現技法平面	パース作成 着色	パース作成	見せ場となるスペースをパースに描き起こす		
			着色	素材感を意識した着色をする		
9	中間プレゼン	自身の考えを他者に伝える	発表	ここまでの制作物を使って		
				プレゼンテーションをする		
10	表現技法立体	模型の表現技法を高める	模型制作	図面を基に、ステレンボードを切り出す		
11	表現技法立体	模型の表現技法を高める	模型制作	いろいろな素材や道具に触れ、		
				自身の表現が伝わる素材を試す		
12	表現技法立体	模型の表現技法を高める	模型制作	いろいろな素材や道具に触れ、		
				自身の表現が伝わる素材を試す		
13	プレゼンテーション資料作成	他者に伝わるプレゼンボードを作成する	ボードレイアウト	見やすさ、わかりやすさを意識して		
				図面等の資料をボードをまとめる		
14	プレゼンテーション資料作成	他者に伝わるプレゼンボードを作成する	ボードレイアウト	見やすさ、わかりやすさを意識して		
				図面等の資料をボードをまとめる		
15	最終プレゼン	プレゼンボード、模型を使ってプレゼンをする	発表	聞き手を意識をした、プレゼンができている		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくなった、A：よくなった、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等